

# 商品を袋に入れて計測 袋型の定規 スケールパック

プロで用途！各業界から「これは便利！」と称賛の声！  
商品を入れる袋の寸法をカンタンに設定&試作袋が作れる！



**小物に合わせて計測！**

- 小袋のお菓子
- 部品関係 (ネジ等)
- 手芸用品 (ボタン等)

**いびつ型・変形している商品用に計測！**

- 小物・雑貨類
- 玩具・ホビー
- ぬいぐるみ
- ワインボトル

**詰め合わせ用に計測！**

- 文房具類
- ドリンク商品
- 衣類装飾
- ギフト商品

**形状の定まらない商品用に計測！**

- 配線ケーブル類
- 装飾品 (造花・リース)

## 計測 方法①: 入れて測る

商品の厚み(膨らみ)に合わせてオーダーメイドで寸法を設定。  
※対象範囲は商品の出し入れのしやすさ、大きさ目、小さ目など、任意で適正サイズを自由に決めることができます。

**縦の計測**  
指でしっかりつまみます！

320  
310 対象範囲  
300  
290  
280  
270

310mm

**幅の計測**

200 210 220 230

対象範囲

5~10mmほどの余裕  
指でしっかりつまみます！

225mm

**Point.1** 商品本体と袋との間には、5~10mmほどの余裕をもたせましょう。

**Point.2** スケールパック本体の左下角が計測の基準値0になります。ここに商品を合わせて計測します。

**計測結果：袋の寸法**  
**310mm × 225mm**  
※数ミリ単位の誤差は調整しながら寸法を設定して下さい。

## 計測 方法②: 置いて測る

商品をスケールパックの上に置いて寸法の計測ができます。

商品の形状に影響することなく、立体的に商品の寸法を計測することができます。



## 計測 方法③: 被せて測る

スケールパックを商品に被せて、商品を透かして計測できます。

透明フィルム生地と方眼升により商品のデザインを見ながら、様々な部位を測定できます。



## 試作 試作袋の作り方

ハサミとセロテープでカンタン工作

商品を一度取り出して切ります。

商品をいれます

フタの長さ

テープ糊の位置

CUT

**完成**

**Step 1** 幅を計測してから余分な部分を切り離します。

**Step 2** 開いた部分をセロテープで貼り合わせます。

**Step 3** 袋が適正サイズであることを確認します。

**Step 4** フタの長さとテープ糊の位置を確認してから、余分な部分を切り離します。

## 底マチ 厚みのある商品を計測

マチを測る

商品箱

スケールパックではマチの長さを計測

書籍や箱など商品に厚みがある場合、袋には「マチ」ができます。このマチの寸法も含めて、スケールパックでは袋のサイズ設定が計測できます。

スケールパックでマチを作ると、余分な部分が二等辺三角形になって作られます。実際の袋製品ではこの部分が本体の内側に折り込まれます。

## 吊下げ 吊下げ袋も簡単に試作

吊下げ部分も含める袋設定

例：付箋4つが入る袋の場合

お店でよく見かける吊下げ用の袋です。

ホチキスでヘッダー部分を留めておきます。  
※ヘッダーの高さは30mmを目安

ホチキスで留めた本体の左下角が計測の基準値0になります。ここに商品を合わせて計測します。

CUT

## 印刷 デザイン位置を計測

商品のデザインに合わせて、印字位置、窓位置、空気穴の位置等の設定が確認できます。

油性ペンで設定位置をマーク

台紙と冊子をいれます。

空気穴の位置設定

**完成**

DM用の宛名台紙に印字されている宛名部分窓位置と寸法を計測します。

封筒の試作品に油性ペンで印をつける事で、袋の厚みまで含めたより正確な窓位置の設定ができるようになります。

フタを含めた袋の展開図で窓位置と穴の位置が内容物のデザインに合わせて設定ができます。

【お問合せ先】

## 注意

ご使用になる前に必ずお読み下さい。  
また、使用中は大切に保管してください。

- 本製品は消耗品です。使用を続けることにより素材が劣化します。使用、保管状況によっては比較的早く劣化することがあります。
- 火のそばや高温になる場所には置かないでください。
- 本来の用途以外には使用しないでください。
- 廃棄時は各自治体の定める方法に従って処理してください。
- 鋭利な部位のある物品を袋に入れると、袋が破袋する場合があります。

ここを基準に測ります

